

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
国語基礎教養 Japanese for an employment exam		1年・2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	講義・演習	選択	(一般常識・公務員講座)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
国語の表現力をさらに高めたいと考えている人には「国語表現」の受講が望まれる。				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
就職試験への対策を考えている人は複数の「基礎教養」科目の受講が望まれる。				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
佐藤康弘		必要に応じて対応。場所は、非常勤講師室。		授業中に指示します
授業の概要				
<p>◎「表現」を中心に授業を展開する。</p> <p>①プリント学習：言葉の大切さを古典文学や日本語の語源等通して学び、生活に必要な表現力を高める。</p> <p>②毎時間、文章表現の時間を取り、レポートとして提出する。</p> <p>③ワンポイント国語常識(社会人として必要になる国語常識を確認する。)主要教材として「笈泰彦著/日本語と日本人の発想」等を活用する。※調べる領域についてはスマホの活用を可とする。必ず出典を明記すること(著作権等)について知る。</p>				
授業の目標				
<p>◎自分の言葉で語ること。</p> <p>①プリントによる学習(漢字・ことわざ・慣用句・文法・文学などの基本的事項の知識を通して自己理解を深め、表現力を高めることができるようにする。)</p> <p>②ワンポイント国語常識(社会人として必要な国語常識を身に付けることができるようにする。)</p> <p>③自主学習：漢字練習(社会人として必要な常用漢字の読み書きの力を身に付けることができるようにする。)</p>				
授業の方法				
<p>この授業の方法は、以下の3項目となる。</p> <p>①講義と演習を組み合わせた形式となる。物事に対して「よく見る」「よく聞く」「よくする」姿勢を持つ。②毎時間プリントによる学習であり、授業の最後に提出する。③プリントの最後に「本日の授業で考えたこと」を記入して学習内容のポイントを確認する。質問も同時に記入する。④プリントには毎時間原稿用紙が印刷されており、書き方等について、その都度指導する。</p>				
学習の成果(学習成果)				
面接や小論文等、就職試験に向けて国語教養の基礎力を身に付けることができる。又、社会人として必要な表現力を身に付けることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	講義ガイダンス(勉強の心構え・講義計画・プリント・課題・成績評価について) プリント学習：学びのプロセス			
第2回目	①学ぶことの基本を確認する。⇒「人はどんな時に最もよく学ぶのか」自己の経験に即して考え、まとめ、表現する。②「先入観」「既成概念」と「私」について考える。			
第3回目	言葉の力：唯心所現(仏教)古今和歌集序文、古事記等を通して、言葉の力について考える。 教養：1月(むつき)の語源とそのころ			
第4回目	人の心のありようについて：「紫式部/源氏物語桐壺」から、考える。-ねたむ心等が人にもたらすもの- 教養：2月(きさらぎ)のころ/敬語：社会人として必要な敬語			
第5回目	物事の移り変わりについて：「鴨長明/方丈記」から考える。 教養：3月(さつき)の語源とそのころ			
第6回目	感情のコントロール：「夏目漱石/草枕」感情の力について考える。 教養：4月(うつき)の語源とそのころ			

第7回目	恋しい愛しいということ：「島崎藤村/若菜集」「エーリッヒ・フロム/愛するということ」※第6回関連 教養：5月（さつき）の語源とそのころ	
第8回目	言葉とイメージ：「川端康成/伊豆の踊子・雪国」イラストで表現。抱くイメージの差異、イメージの同一化の理由を考える（言葉の力）。教養：6月（みなづき）の語源とそのころ	
第9回目	不安・恐れについて考える：「梶井基次郎/檸檬」 参考：セルフエクササイズティーム/自己イメージ 教養：7月（ふみづき）の語源とそのころ	
第10回目	現代社会の課題を考える：「三島由紀夫/英霊の声」課題をイラスト、文章で表現、プレゼンテーション。姿勢・視線・滑舌・声量等に留意 必ずメモを取り要旨を理解。 教養：8月（はづき）の語源とそのころ	
第11回目	第10回プレゼンテーション続き。 教養：9月（ながつき）の語源とそのころ	
第12回目	SNSについて考える：「SNS上にあふれる正論テロ/東洋経済」「3年A組最終回」いずれかを活用。 教養：10月（かんなづき）の語源とそのころ	
第13回目	グローバル社会について考える：「緒方貞子/私の仕事」要旨をまとめる。緒方貞子の「共治」という考え方について、自分の意見をまとめる。 教養：11月（しもつき）の語源とそのころ	
第14回目	学び・競争について考える：「クリシュナムルティ/英知の教育」「論語学而」競争社会をいかに生きるか自分の考えをまとめる。 教養：12月（しわす）の語源とそのころ	
第15回目	全体のまとめ：2分間スピーチ（受講生30名の場合）	
事前・事後学習	事前学習（授業テーマについて調べ、自分の考え方を明確にしておく）・事後学習（返却プリントを毎時間確認する）	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
		評価の基準
授業参加態度	45%	毎時間配布のプリントを授業後に回収。毎時間ごとに「読む・聞く・書く・話す+レポート」の各領域を4点満点で評価し、その平均点を本時の授業評価とする。評価：優4/良3/可2/不可1
レポート	15%	プリントのレポート領域（文章表現）の表現力により評価する。評価基準は上記同。（言葉の定義/誤字脱字/文脈/論旨の明確さ等）
調査報告書		
小テスト		
試験	40%	16週目に実施。大テーマによる論述問題(2問)で10点、授業全体から短答式の設問(15問)で30点の試験。40点満点。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：プリントによる授業のため教科書は使用しない。 参考書・参考資料：授業担当者より適宜紹介するが購入の必要はない。		
履修上の留意点・ルール		
毎回授業でプリントを配布し回収して添削・評価を行うので、欠席した場合は「オフィスアワー」等を利用して補講を受ける。		